

潮流



NPO法人未来副理事長、
鳥取県中部医師会副会長

五月三十一日の世界禁煙デーから始まる禁煙週間に鳥取県中部医師会と福祉保健局が主催し、世界禁煙デー関連イベントを開催するようになって、今年で五回目となりました。今年は中部歯科医師会と薬剤師会も主催となり、医療に携わる三志会が連携し、倉吉ショッピングセンター、パープ

松田 隆

ルタウンの協力も得て、のではないかと思いま
六月一日午後一時から中
央広場に幟旗を掲げ、呼

相談コーナーでは、医

気中の一酸化炭素測定などの体験コーナー、禁煙相談コーナーを設け、受動喫煙による健康被害等の大画面でのビデオ上映の影響など、禁煙に対す

り、小六男子15→8%、前回調査より大幅に減
れ、今年三月に鳥取県の

平井知事から卒煙証書を直接授与されました。今
年はイベント中に申し込

みされた方のみならず、中部医師会の禁煙治療を行っている医療機関でも

禁煙チャレンジ

やパネル展示、禁煙紙芝居や絵本の読み聞かせなどを実感しました。一方、どを行いました。高校生や若い人たちも立ち寄つてくれて、今年の世界禁煙デーのスローガンの「TOBACCO-FREE YOUTH (たばこがないこと)」に少しは寄与した

女子10→6%、中三男子28→13%、女子19→10%、高三男子44→26%、女子27→16%となり、「喫煙方に話ををしていて感じたことは、受動喫煙や禁煙EE-YOUTH (たばこがないこと)でした。

この害から若者を守るう」に少しは寄与した

女子10→6%、中三男子28→13%、女子19→10%、高三男子44→26%、女子27→16%となり、「喫煙知情がきちんと伝わって

「禁煙チャレンジ」を受

け付け、多くの方に禁煙

をしていただき、鳥取県

を知事名入りの卒煙証書を

受け取ってほしいと思

ます。

高校三年生を対象に文部科学省が行った調査によると、「たばこを吸った方が昨年より増加し、小中高生の割合は、すべての学年で二〇〇〇年の一名の方が禁煙を継続さ

れ、今年三月に鳥取県の平井知事から卒煙証書を直接授与されました。今

年はイベント中に申し込みされた方のみならず、中部医師会の禁煙治療を行っている医療機関でも

縛られた人生から解放され、血行障害も解消され、色艶もよくなり、生き生きとされ、禁煙支援をし

ている側もつれしくなっ

てきます。最近、喫煙は習慣(癖)ではなく、治

すことのできるニコチン

依存症(ND)という病

になり、日本人喫煙者の

七割がNDという調査結

果が報告され、依存から抜け出せない喫煙者こそ

が第一の被害者だといわ

れています。新しい禁煙

補助薬も開発され、多く

の方が禁煙できる時代に

なりました。自分のため、

家族のため、楽しく生き

いくために禁煙チャレ

ンジしてみませんか?

学六年生、中学三年生、思います。

禁煙された方を見てい
る、たばこの購入に苦
労されたり、喫煙場所を
探したりといったたばこに

(倉吉市)